



## コロナ禍で得た経験を今後に生かす

教育学部同窓会長 白杵 勇人

会員の皆様には、日ごろより教育学部同窓会の活動全般にわたりご理解とご協力を賜り厚く感謝申し上げます。コロナ禍のため、3年間にわたって計画した内容や活動を十分に行うことができませんでした。本当に申し訳なく思っております。

さて、コロナ禍ではありますが、令和3年度の卒業式、令和4年度の入学式を朱鷺メッセで、関係する学生のみでの参加で挙行することができました。

教育学部の卒業生は218名と聞いています。その中で、新年度4月から新採用として新潟市内の学校に着任した十数名の先生方とお会いする機会を得ました。大学生活の半分はオンライン授業で苦労も多かったようですが、教職員としてのスタートを迎えることができた喜びと意欲に満ちた眼差しに接することができ、大変嬉しく思いました。「子どもたちと最高の思い出を作ってください」「子どもたちの心に寄り添った指導・支援、学級経営を頑張ってください」とエールを送りました。

新年度がスタートし、教育学部にも希望に満ちた180人の新生入生、そして15人の教職大学院生を迎えることができました。キャンパスの中にも元気溢れる学生の姿が多く見られ、活気に満ちています。また、本年度の授業は、ハイブリット形式は変わらないものの、約7割対面式授業を計画しているそうです。手洗いの励行、マスク着用をはじめ、三密を避けるなど、これまでの新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図っていただきたいと思っております。

各学校でも新年度を迎え、緊張感をもってコロナ対策を講じながら、児童・生徒の生命と健康を守り、充実した授業づくり、楽しい学校生活づくりに向けて、着実に創意工夫ある取組をされていることでしょう。

5月現在、新潟県では400人前後、新潟市では200人前後の感染者数で高止まりしている状況です。そのため、新年度計画の審議を行う本部会、評議会を书面表決とさせていただきます。新しい本部役員との打ち合わせもなかなかできない状況ですが、コロナ禍で得た経験を生かし、未来に繋がる同窓会活動を行いたいと考えています。広報誌「教育新報」、ホームページの配信により、同窓会や大学に関する情報をお届けしていきますので、よろしくお願いいたします。

結びになりますが、入学生数の減少と学校会員数の減少が財政基盤に大きく響いています。持続的で充実した運営と各種事業の推進には、皆様からの更なるご支援とお力添えが必要です。各学校関係者ばかりでなく、同期の皆様にも同窓会参加への声掛けをお願いいたします。



## 令和4年度 教育学部同窓会の活動の重点

コロナ禍でも質の高い教員を養成し、教員採用率の向上を目指す『教育学部』や高度な教育的実戦力や専門性を育成する『教育実践学研究科』と連携・協力しながら、母校の発展と同窓生の親睦がより深まる方法を工夫するとともに、同窓会活動の一層の充実を図る。

### 1 「同窓生の集い」の充実

- (1) 講演会・親睦会として、講師の選定、内容の充実を図る。
- (2) 学科を中心とした絆強化の機会とする。
- (3) コロナ禍での開催方法を工夫し、安心・安全な集いとなるようにする。

### 2 広報活動の充実

- (1) より親しまれ、読み応えのある「教育新報」を目指し、内容の充実を図る。
  - 教育学部、教育実践学研究科、会員相互の様子をできるだけ多く掲載し、情報提供する。
- (2) 会員の情報提供及び情報交換の場として、ホームページの活用・充実を図る。

### 3 組織の充実と強化

- (1) 各支部・学科の集まりや同期の会など、縦と横のつながりを支援する。
- (2) 専門部の事業や各支部・学科の活動を基に、会員の帰属意識の向上を図る。

### 4 大学との連携

- (1) 教員養成改革の動向に合わせて、母校の発展のための助言や支援方法を工夫する。
- (2) 教育実践学研究科の維持・継続・発展のための支援を推進する。
- (3) 学生への支援並びに学部教官の同窓会活動への参加を働きかける。
- (4) 教育学部、教育実践学研究科と連携して「カミングホームデイ」を開催し、教官との情報交換と絆づくりをとおして、同窓生としての帰属意識を醸成する。

### 5 全学同窓会との連携

- (1) 令和3年度の全学同窓会交流会・講演会(農学部同窓会担当)への参加を呼びかける。
- (2) 「新潟大学カード」の周知を図り、加入者・利用者を増やす。
- (3) 全学同窓会賛助会費の周知を図る。